

# 南湖に放流したホンモロコ標識魚(平成28年度放流群)の追跡調査

米田一紀・根本守仁・大植伸之

## 1. 目的

かつてホンモロコの主要な産卵場であった南湖は、現在ほとんど産卵が確認されなくなっている。そのため、産卵繁殖場から北湖までの連続性を確保した水草刈り取りおよび標識種苗放流を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗を追跡調査することにより、南湖から北湖への移動分布の把握と親魚来遊状況調査および産卵状況調査によりホンモロコの再生産を確認し、増殖促進効果を実証する。本項では平成28年に下笠地先で放流されたホンモロコの追跡調査を報告する。

## 2. 方法

① 親魚来遊状況調査：春期(3月)に、稚魚放流地点付近の地点(図1)において、漁業者の傭船による刺網調査を行った。また、春期(3~8月)に、南湖に設置されたエリ(図1)において、ホンモロコの混獲状況調査(以下、「エリ混獲魚調査」という)を行った。採捕されたホンモロコ親魚はALC耳石標識を確認した。

② 産卵状況確認調査：春期(3月中旬~6月下旬)にはほぼ毎週1回、稚魚放流地点付近や下笠造成ヨシ帯(図1)を中心として、産卵の有無を調査した。

## 3. 結果

① 刺網調査では、ホンモロコ親魚1尾が採捕されたが、これは平成28年度に赤野井水田より放流した個体であった。エリ混獲魚調査では、ホンモロコ親魚212尾が採捕され、うち24尾が平成28年度に下笠地先で放流された個体、1尾が平成27年度に下笠地先で放流された個体であった。親魚は主に4月および5月に来遊していた(図2)。採捕された個体の多くは生殖腺の発達が確認され、産卵のために来遊した可能

性が高い。

② 産卵状況確認調査：3/16~6/22の期間で計15回の調査を行ったが、調査地点での産卵は確認されなかった。

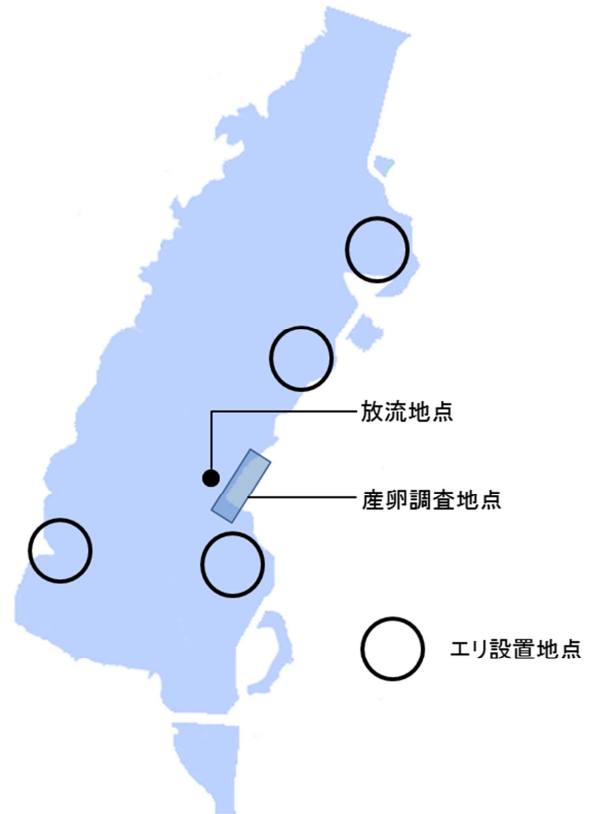


図1 ホンモロコ放流地点および調査地点

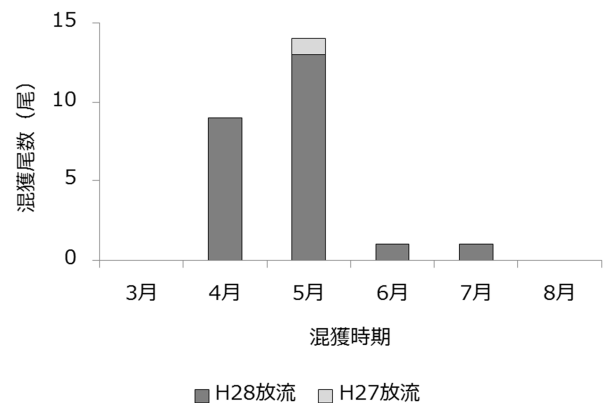


図2 下笠由来の親魚採捕尾数の推移